

株式会社ブリヂストン
広報部
東京都中央区京橋 3 丁目 1 番 1 号
〒104-8340
電話：03-6836-3333
FAX：03-6836-3184
<https://www.bridgestone.co.jp>

2026 年 10 月 23 日

第 16 回 ブリヂストン グループ・グローバル TQM 大会を開催

継続的改善とイノベーションを通じて、当社使命「最高の品質で社会に貢献」を目指す

株式会社ブリヂストン（以下、ブリヂストン）は、「第 16 回 ブリヂストン グループ・グローバル TQM^{※1} 大会」を開催しました。本大会は、当社の使命「最高の品質で社会に貢献」のもと、世界各拠点の改善事例を共有し、グローバルで学び合うことによって、価値創造の強化を目的としています。TQM 活動は、1960 年代から続く当社の品質経営活動を代表するものであり、「ブリヂストン独自のデミング・プラン」と、その基本思想である「良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる」に基づいています。グローバル全員参加で品質へのこだわりを大切にし、継続的改善とイノベーションを促進する TQM 活動を通じて、「最高の品質で社会に貢献」の実現につなげていきます。



表彰式の様子

2026 年は、世界各地域・事業所から 2,000 件を超える改善事例が寄せられ、その中から 12 件が優秀事例として選出されました。優秀事例として選出されたチームが世界中から日本に集結し、改善事例の発表を行った結果、最優秀賞にあたるグランプリには 2 つの事例が選出されました。

1 つ目は、「精練工程のプロセスイノベーション」を成功させた彦根工場の事例です。ゴムを練る精練工程における品質や生産性の更なる向上に向け、現物現場で仮説と検証を重ね、品質向上とコスト削減を実現しました。2 つ目は、組織横断のワンチーム体制とデータ活用によって、自動車メーカー向けタイヤの生産効率・在庫管理を大幅に

改善し、お客様への更なる安定供給や納期短縮などの納入信頼性向上を実現したイズミット工場（トルコ）の事例です。以下では、1 つ目の事例「精練工程のプロセスイノベーション」をご紹介します。

■ 「精練工程のプロセスイノベーション」（彦根工場）

【背景・課題】

ゴムを練る精練工程では、品質、生産、コストのバランス最適化に向け、日々改善に向けた活動を推進しています。この活動の中で、精練工程に使用する全ての材料とその使用方法や使用量を見直したところ、ある材料の取り扱いが課題として挙がりました。当該材料の使用について、現場での調整だけでは十分な解決に至らず、安定した生産と品質、コストの最適化には技術的ブレークスルーが不可欠でした。

【取組内容】

精練工程の現場検証と調査を重ねた結果、品質、生産、コストのバランス最適化には現在の使用方法では解決できない根本的な課題があることを突き止めました。突き止めた原因を踏まえ、当該材料の使い方について仮説を立てて検証を繰り返したことで、応用技術を発見し、既存の工程と組み合わせた方法を確認しました。その結果、品質向上だけでなく、材料使用量の削減などコスト削減にも寄与する革新的な手法を編み出すことに成功しました。

【効果・価値創造】

現場の知恵を生かした工程設計により、効率的に現有設備と導入機材を組み合わせることで、導入コストとランニングコストを大幅に低減。他社にはマネできない圧倒的な優位性を実現し、品質や生産性を大幅に向上させた結果、投資額に対し 171%のコスト削減効果を創出

【今後の展望】

今後は国内工場へ展開、さらにはグローバルの工場にも拡大することで、全社的な品質改善及びコスト改善に貢献し、さらなる価値創造と「稼ぐ力」の強化に取り組めます。



材料について検証している様子

なお、今年はグループ・グローバル TQM 大会と同日に当社グループのグローバル最高位の表彰制度「Bridgestone Group Awards」の表彰も開催しました。グローバル全体で成果を共有し、世界中のチームメイトが互いの挑戦や成果を学び合い、価値創造の強化を目指すイベントとなりました。

ブリヂストンは今後も現物現場を大切にしながら継続的改善とイノベーションを推進し、経営・業務品質の向上を追求することで、企業コミットメント「[Bridgestone E8 Commitment](#)」で掲げる 8 つの価値（Energy, Ecology, Efficiency, Extension, Economy, Emotion, Ease, Empowerment）に従業員・社会・パートナー・お客様と共に創出し、持続可能な社会を支えることにコミットしていきます。

※1 Total Quality Management の略

以上

本件に関するお問い合わせ先 <報道関係> 広報部 TEL：03-6836-3333 <お客様> お客様相談室 TEL：0120-39-2936
--